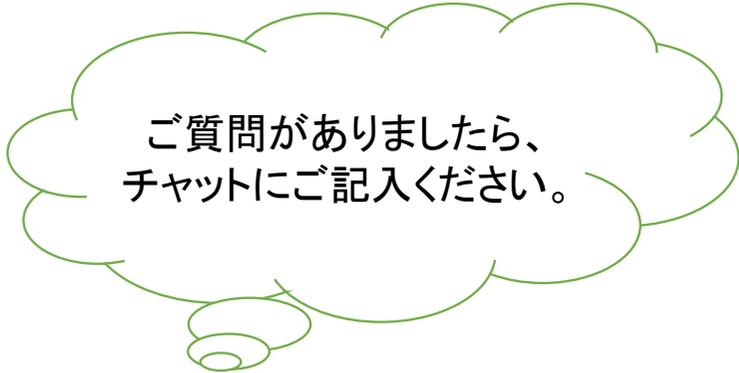


第21回陵水亭懇話会
2020/08/22



ご質問がありましたら、
チャットにご記入ください。

来る100年と次の100年に向けて
—彦根高商の日々を知る—

【其の四 新聞報道にみる彦根高商(ゴシップ編)】

今井綾乃(大58・院41)

0.自己紹介

- 2010年3月学部卒(大58回)

邦楽部、フットサルサークル

宇佐美ゼミ(近江商人研究) → ウォーリスやその企業

誰も見ていない彦根高商資料 = 彦根高商のカリキュラム

- 2013年4月院進、後期課程

カリキュラム+生徒の進路 (+地域)

『滋賀大学陵水100年史』編纂

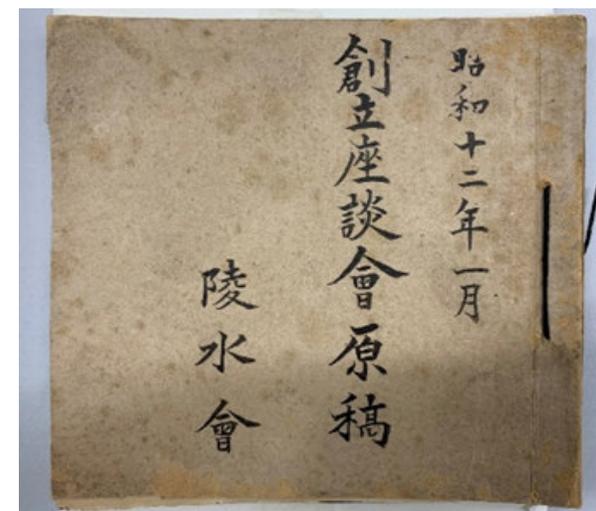
陵水会の資料 ……見向きされてこなかった

他の学校・同窓会 ……小樽商科大学、大分大学

1.これまでの振り返り

【其の一】彦根高商の始まり

1923 (大正12) 年	第1回入学式 (入学者: 151名) 修業年限3年 商業と高等教育を。
1927 (昭和2) 年	別科 (修業年限1年) を設置 (入学者: 103名)
1939 年	支那科、のちの東亜科 (修業年限3年) を設置 (入学者: 58名)
1944 年	「教育に関する戦時非常措置方策」 彦根高商は彦根工業専門学校に。 彦根高商に在籍していた生徒は彦根経済専門学校生に。新規入学は停止



- 1919年～ 誘致運動
- 寄附金44万円
 ≒ 約2億2000万
 - 有力者
 - 町民(女性も)
 - 地域の力によって

【其の二】教育をめぐって(カリキュラムの特徴)

- 「哲学概論」と「文化史」を必修科目として開講

- 背景

社会の要請

彦根という場所柄

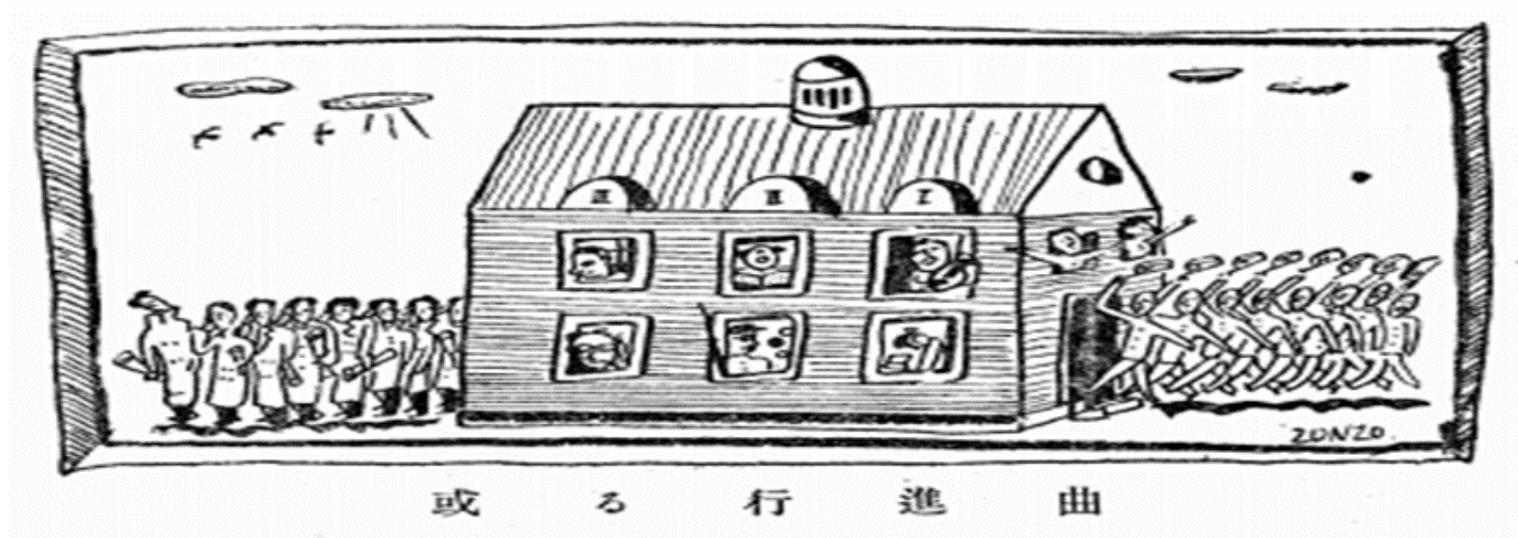
(城山、琵琶湖、中江藤樹、井伊直弼)

- 理由

サラリーマンとしての人格の養成



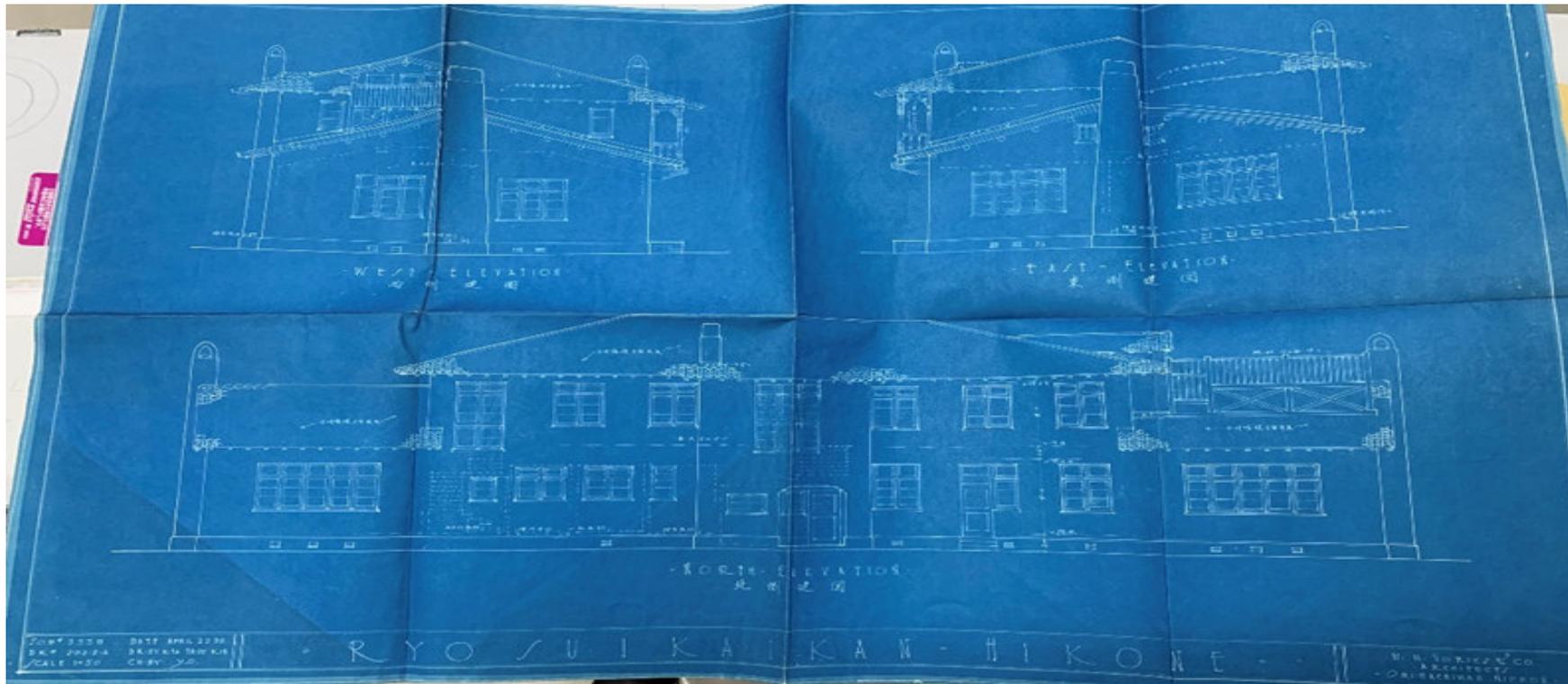
【其の三】就職をめぐるって



- 企業への就職の様子
- 彦根や滋賀という地縁を利用し、近江商人系企業へ

【共通】これまで主に活用した資料

- 捨てるに捨てられない「古いモノ」 → 彦根高商資料
- 陵水会資料 → 100年史編纂を機に陵水会で保管、展示へ



【其の四】新聞報道にみる彦根高商（ゴシップ編）

- これまで誰も明らかにしてきていない
- 記念誌は、一般的には自らの歴史を誇るもの
- 報道された新聞
- 彼らの本来の姿

2.ここでみる新聞について

(1) 所在

大学資料

= 滋賀大学経済経営研究所の所蔵

- その原点 彦根高商調査課(1923年)
- 生徒や教官の調査研究のために資料収集



- 調査課が収集した新聞

大阪朝日新聞、大阪毎日新聞、中外商業新報、日刊工業新聞など



- 大阪朝日新聞 1928年6月～1940年10月
- 大阪毎日新聞 1928年5月～1940年4月

→滋賀についての情報をあつめた特集紙面「滋賀版」



(2) 特徴

- 原紙
- 滋賀の公立図書館に原紙がない、見られない
- 日焼け、破損、水損など歴史を感じられる

3 新聞報道にみる事件・事故 ～6つ～

(1) 停学処分の波紋

非公開

事件の概要

- ・3年生5名が遊郭へ
- ・生徒は停学
- ・その父兄を電報で呼び寄せ

- ・処分に不平をもつ生徒
- ・学校が偽名調査
- ・御大典の祝いの最中

- ・生徒らは自浄作用をもたらす学生会の結成を決定

『大阪朝日新聞』1928年12月5日

続報①

- 講堂に生徒500名
- 4時間議論
- 「自治的精神を基調として向上発達を目的とする」案

非公開

『大阪朝日新聞』1928年12月6日



1932年3月卒業アルバム「学生総会」

続報②

- 教授会で、案を審議
- 学生会の結成には賛成
- 生徒が一丸となって良くない方向へ進むことに懸念がある
- 3度の教授会を経て

→1928年12月27日学生会を許可

非公開

『大阪朝日新聞』1928年12月9日

(2) 漕艇部事案から始まった生徒の団結

非公開

事件の概要

- ・漕艇部9名
- ・授業を1週間欠席
- ・懲戒処分

- ・漕艇部員が脱退届
- ・各部の幹事30名
- ・懲罰緩和の嘆願書と辞表
- ・ひとまず保留

『大阪朝日新聞』1932年10月4日

生徒主事の話

- 漕艇部に前もって注意した
- 特別制度はない
- やむなく処分



1932年3月卒業アルバム

『大阪毎日新聞』1932年10月6日

- 学校と先輩が生徒を慰撫
- 認識不足であったとの見解
- 辞表を撤回

- 不満をもつ硬派も
- 外部のテロ系団体と結びあう
- 就職率の全国1位を誇る校史に汚点を印す

(3) 地域から影響を受ける風紀

- 非公開

事件概要

- 近江帆布の彦根工場争議
- 3年生の1名
- 繊維労働組合幹部と親交あり
- 京都から争議に来た須田を下宿先に
- 彦根署が生徒の下宿へ

- 争議のパンフレットが多数
- 検束処分
→ 生徒は争議に関係ない

『大阪毎日新聞』1930年7月5日

(4) 地域へ与える問題①



1930年卒業アルバム

事件概要

- ・彦根高商生の食費不払い
- ・彦根高商付近の食堂12軒
- ・不払い高商生をロックアウト
- ・食堂組合を結成

『大阪毎日新聞』1931年5月10日

非公開

(4) 地域へ与える問題②

非公開

事件概要

- 3年生1名
- 袋町を泥酔、徘徊
- 理髪職人をビール瓶で殴打、全治10日
- 彦根署巡査を殴打、全治1週間

→ 暴行事件が繰り返されている

→ 彦根署から学校に警告を発する

(5) 彦根高商を目指した者による事件

非公開



事件の概要

- ・三重の中学生が入学手続き
- ・つるや旅館に宿泊
- ・列車に飛び込む
- ・過度の勉強による神経衰弱症
- ・経済面の貢献

『大阪毎日新聞』1934年2月13日

(6) お騒がせ

非公開

事件の概要

- ・1年生1名
- ・霊仙嶽へ登山
- ・行方不明
- ・翌朝、搜索
- ・正午、何知らぬ顔で下山

- ・道に迷い約7時間歩く
- ・山頂に着いたが日没に
- ・熊笹に寝転んで一夜を明かした
- ・下山した際、朝食
- ・遭難に鑑み、霊山嶽に案内札を立てた

『大阪朝日新聞』1932年10月25日

4 まとめにかえて

新聞報道

- ・事件や事故
- ・地域と高商の関わり合い
- ・新聞も歴史史料